

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)		長浜での暮らしを選択する若者を増やしたい	滋賀県長浜市
-----------------	--	----------------------	--------

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	長浜活性化プロジェクト		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、 3. 学生	ドロップダウン選択→	2. 学生
チームメンバー数(公開)	6 名		
代表者(公開)	西村利未来		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_ 応募用紙_ 具体的なチーム名_ 該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名(メンバー一覧ページを参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 → OK

＜チームメンバー名簿:メンバー一覧ページ＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でわくわくするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。**2 ページ以内**でご記入ください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

どうしたら長浜市に若者が戻ってくるのか

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみること）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

長浜市では、2010 年以降急激な人口減少が続いており、2005 年に人口のピークを迎えて以降、現在でも減少が続いています。0～64 歳人口は年々徐々に人口が減少していているのに対し、65 歳以上人口は一貫して増加傾向にあります。本提案は、若者減少が目立つ長浜で、グランピングなどの若者をターゲットとした施設を作り、運営を行う事で、それをきっかけとして滋賀にある琵琶湖以外の魅力を再発見してもらい、長浜が若者を取り戻すことを目的とした提案です。

[アイデアの説明]

滋賀県が、滋賀県に在住住む人や、他府県に住む人に対して、琵琶湖の湖岸、湖上でグランピングをするというアイデアです。

湖上グランピングは、まだそこまで普及しておらず、滋賀県の魅力である琵琶湖が最大限に活かせる機会となります。

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

※このアイデアを提案する理由(なぜ)を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

そのアイデアにした理由

滋賀県唯一の魅力を活用し、今滋賀県在住の方も、滋賀県外の方にも「滋賀県ってこんなに素敵な場所なんだ」ということを知っていただき、長く住みたい、と思っただけの施設を作りたいと考えたからです。また、グランピングを選択した理由としては、若者を中心とした幅広い年代に大きな負担なく楽しんでもらうこと、コロナ禍を経てグランピングが近年注目されていることです。また、他府県と異なる魅力にするために、琵琶湖でしかできない湖上グランピング施設を設立したいと考えています。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. 実現する主体
2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

まず、実現する主体としては、地域住民や民間企業が中心となります。地域自治体は観光振興や若者の定住を支援するために補助金や助成金を提供民間企施設の建設や運営を担当し、地元の企業と連携し、PR 活動や長浜の魅力を伝えます。

次に、実現に必要な資源のヒトに関しては、建設業者や設計士、運営スタッフや、が必要です。また、地元の観光協会や行政のサポートも必要となります。

モノに関しては、湖上に適したグランピング用のや設備、環境に配慮したエネルギー源、長浜市ならではのアクティビティなどが必要です。さらに、施設の建設に必要な耐久性のある材料や設備も重要です。

カネに関しては建設費や運営費、地域からの助成金が必要です。

実現にいたるプロセスとしては、まず構想段階で市場調査や基本コンセプトを策定し、計画段階で事業計画書作成や土地確保、許認可取得、資金調達を行います。

設計・準備段階でマーケティング戦略の立案を進めます。

建設・運営準備段階で施設建設やスタッフの採用・訓練を経て、25 か月以降に施設をグランドオープンし、運営を通じてサービス改善や地域との連携強化を図ります。